

2. 現行システムにおける課題点

課題の分類	現行システム	次期システム
システム構成	<ul style="list-style-type: none"> ● 任命権者(部局)ごとにシステムが構築され、使用範囲も様々に複雑化しており、職員の業務運用工数と委託業者の運用工数が増加している ● 各システムで利用する職員情報や共通的なコードデータが分散し、システム間のデータの流れが複雑化しており、また一部がSE作業になっており、リアルタイムに反映されない ● 設計が古いため保守性が悪いことから改修費用が高価 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 全部局が利用できるシステムに刷新する ➢ 共通データを一元管理し、システムによるデータ連携機能を利用した連携にする
機能	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックや自動計算機能が十分ではないため、計算誤りや漏れがある ● 職員がシステム上のデータ参照や更新ができない ● 各システムでIDとパスワードを管理しており煩雑である 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 十分なチェックや自動計算機能を有したシステムとする ➢ 職員が運用主体となるシステムの導入 ➢ シングルサインオンの導入
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能拡張が十分ではない ● 紙稟議、紙保存 ● 給与システムサーバがLGWAN接続系のためテレワークで業務ができない ● システム形態(webアプリ、javaアプリ)がバラバラ 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 保守料を定額料金とする ➢ ペーパーレスに対応した電子決裁システムの活用 ➢ 給与システムサーバをインターネット接続系へ移行

3. 次期システムへの提案ポイント

- ① 人事システムを全部局で統一し、職員番号を大幅に拡張し、自動採番により全職員を一元管理する。
 - ✓ 任命権者間の異動時にも切れ目ない履歴管理ができる。
 - ✓ 人事異動時のSE作業が不要になり、運用保守費用を削減できる。
 - 統一人事システムは会計年度任用職員も管理対象とする。
 - ✓ 会計年度任用職員から一般職員に採用された際に履歴情報を初任給決定時に活用できる。
- ② 共通的な組織コードや会計コード、職名コード、職員情報等を一元管理し、各システムはデータ連携基盤で流通させる。
 - SE作業によるデータ流通作業の遅滞を解消し運用保守費用を削減できる。
- ③ ペーパーレス、電子決裁を実現するために導入済みの「文書管理/電子決裁システム」を活用する。
 - 拳証書類等の紙文書を電子(PDF)化し電子決裁システムで稟議する。
 - 決裁後文書は文書管理システムの保管機能で保管する。
 - ✓ 保管場所の削減
- ④ 職員認証をWindowsAD認証に一元化し、各システムのシングルサインオンを実現する
- ⑤ テレワークに対応するために、財務会計システムと給与システムをインターネット接続系に移行する

